

資料

平成26年度における生物同定試験の結果

石間妙子・中島 淳・須田隆一

当所で窓口依頼検査として行っている生物同定試験の平成26年度の結果について概要をまとめた。依頼件数は54件で、内容別にみると食品中異物が45件、家屋内発生が2件、事業所内が6件、その他（由来不明）が1件だった。ハエ目の検出回数が最も多く、次いでチョウ目、カメムシ目、コウチュウ目、ゴキブリ目の検出回数が多かった。種まで同定できたものは15件で、チャバネゴキブリ、ノシメマダラメイガは複数回検出された。同定依頼は8月から1月にかけて多く、8月が最も多かった。

[キーワード：衛生害虫、ペストコントロール、食品中異物]

1 はじめに

当所では、窓口依頼検査として生物同定試験を実施している。本試験は主に衛生害虫を対象として、持ち込まれた虫体について種の同定を行い、その結果について成績書の発行を行うものである。本報では平成26年度における生物同定試験結果をまとめ、その傾向について考察を行った。

2 検査の方法

持ち込まれた検体は、発生状況についての聞き取りを行い、その経緯から食品中異物（食品中から発見されたもの）、家屋内発生（一般住居から発見されたもの）、事業所内（工場や会社事務所等で発見されたもの）、皮膚掻痒（皮膚掻痒症原因ダニ類の検査）、その他（研究機関依頼、由来不明など）の5つに区分して記録した。

検体は実体顕微鏡下で直接調べ同定した。このうち乾燥している検体は、10%水酸化カリウム溶液に数時間浸潤し、軟化させた後に検鏡した。また、粘着テープ類などに付着していた検体は、2-プロパノール液に24時間程度浸潤して粘着物を剥がした後に検鏡した。なお、平成26年度は室内塵中の皮膚掻痒原因ダニ類については持ち込みがなかったため、その検査方法の説明は割愛する。

3 結果及び考察

平成26年度における生物同定試験の依頼件数は計54件で、1件あたり1分類群ずつ検出された。過去20年間の依頼件数は概ね年間40-70件程度であり¹⁻³⁾、例年と比較して件数に大きな変化はみられなかった。

54件の依頼理由の内訳を図1に示す。食品中異物が最も

多く、全体の約83%にあたる45件で、残りの9件のうち1件は、虫体ではなく植物繊維とみられるものであった。また、平成26年度は皮膚掻痒に区分される検体は持ち込まれなかった。平成23年度までの本試験の結果においても、食品中異物を由来とする検査依頼が近年増加していることが指摘されており²⁾、本年度も同様の傾向であるといえる。

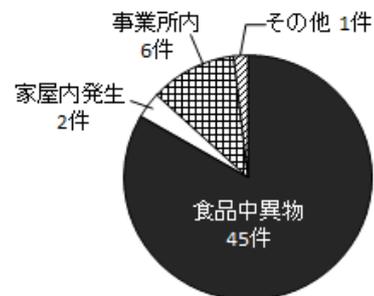


図1 平成26年度における生物同定検査の依頼理由

月別の依頼件数と依頼理由の内訳の推移を図2に示す。依頼件数は8月から1月にかけて多い傾向があり、最も多かったのが8月で、次いで1月、9月だった。過去20年間においても夏季を中心に依頼件数が多く^{1) 2)}、例年と同様の傾向であった。

表1に、検出した54分類群の内訳を目レベルで月ごとに示す。目まで同定できたものは52検体で、分類群としてはハエ目が最も多く、次いでチョウ目、カメムシ目であった。ハエ目は、17検体中4検体がノミバエ科で、クロバネキノコバエ科が3検体、チョウバエ科とイエバエ科がそれぞれ2検体ずつ持ち込まれた。いずれの科も、食品や排水溝等に発生する衛生害虫として、よく知られる分類群である。なお、ハエ目全体の約24%にあたる4検体は幼

虫の状態だった。チョウ目は9検体のうち5検体がメイガ科であった。本科には農作物や貯蔵食品の害虫として問題となる種が多く含まれており、過去10年間においても、メイガ科のノシメダラメイガが最も多く検出されていることから²⁾、本年度も例年と同様の傾向であったと考えられる。なお、チョウ目全体の約78%にあたる7検体が幼虫もしくは蛹の状態だった。カメムシ目は6検体中3検体がアブラムシ科で、ヨコバイ科、アワフキムシ科、カスミカメムシ科がそれぞれ1検体ずつだった。

持ち込まれた検体のうち種まで同定できたものは15検体で(表2)、そのうち13検体は食品混入だった。チャバネゴキブリ、ノシメダラメイガは2検体ずつ持ち込まれた。表2に示す種のほとんどは、古い時代から食品混入や家屋内害虫、不快害虫として問題視されている節足動物で、継続して一定の問題を起こしていることがわかる。

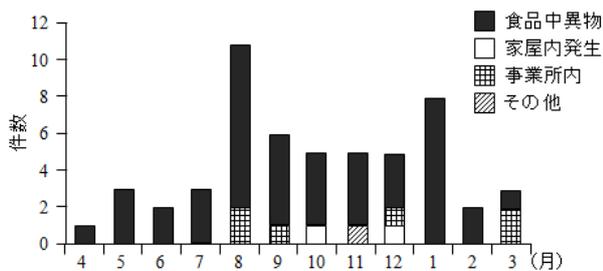


図2 平成26年度における月別の依頼件数と内訳

表1 各月における各目の検出数

目	月												計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
ハエ		1			4	2	1	2	2	3		2	17
チョウ				1	2	2	1	1	1		1		9
カメムシ			1			1		2		2			6
コウチュウ					2		1		1				4
ゴキブリ				1							2		3
トビムシ					1	1							2
チャタテムシ		1			1								2
ハチ								1			1		2
クモ		1										1	2
オオムカデ					1		1						2
ダニ										1			1
オビヤスデ			1										1
カレイ												1	1
目不明		1		1									2
計	1	3	2	3	11	6	5	5	5	8	2	3	54

表2 種まで同定できた15検体の種名と発生状況

目	種名	検体の発生状況
ゴキブリ	チャバネゴキブリ	食品中異物(総菜)
ゴキブリ	チャバネゴキブリ	食品中異物(皿うどん)
コウチュウ	ハウカクムネチビヒラタムシ	食品中異物(乾燥シイタケ)
コウチュウ	カドコブホソヒラタムシ	家屋内発生(畳表)
コウチュウ	ヨモギハムシ	食品中異物(辛子高菜)
カメムシ	ジャガイモヒゲナガアブラムシ	食品中異物(レタス)
ハチ	ヒメアリ	食品中異物(焼き菓子)
ハエ	オオイエバエ	食品中異物(クラグ塩水漬け)
チョウ	ノシメダラメイガ	食品中異物(ドッグフード)
チョウ	ノシメダラメイガ	食品中異物(辛子明太子)
チョウ	スジマダラメイガ	食品中異物(辛子明太子)
チョウ	オオタバコガ	食品中異物(レタスシュレット)
ダニ	ケナガコナダニ	家屋内発生(TVボード)
オビヤスデ	ヤケヤスデ	食品中異物(パン)
オオムカデ	トビズムカデ	食品中異物(塩蔵わかめ)

文献

- 1) 緒方 健, 山崎正敏, 杉 泰昭: 生物同定試験検査結果(平成13年分), 福岡県保健環境研究所年報, 29, 154-159, 2002.
- 2) 中島 淳, 緒方 健, 中村朋史, 須田隆一: 過去10年間(平成14-23年度)における生物同定試験検査結果, 福岡県保健環境研究所年報, 39, 113-114, 2012.
- 3) 石間妙子, 中島 淳, 須田隆一: 平成25年度における生物同定試験の結果, 福岡県保健環境研究所年報, 41, 149-150, 2014.